

絵画碑

O b e l i s k p i c t u r e

薬師川 千晴

Y A K U S H I G A W A C H I H A R U

科学の発達により、あらゆる技術が絶え間なく産み出され、かつては生きるための「手段」であった技術が、その姿を変えつつある。技術は、社会のための技術となり、今や技術によって産み出された物質が消費される時代を通り過ぎ、もはや技術によって、人間自身が翻弄され、消費される時代となっている。

そして、芸術における絵画もまた、同じ運命をたどっている。絵画は文化を担うという芸術本来の姿を見失い、社会に消費される商品となり、今では作家それ自身までもが消費される時代となっているのではないだろうか。

今、私が危機感を持つのは、その「人間性と技術」ないし「人間性と芸術」の隔たりである。

そもそも人間性とは何か、そして技術の起源とは何なのか、そのすべては「手」の開放にあるのではないだろうか。歩く道具であった「手」が大地から解放され、人間は文字通り生きる為の「手段」を得た。「手」が手となった事で、人は絵(壁画)を描き、器を作り、自ら創り出した“もの”に、想い(用途)を託し、本質的な意味で“創造する”事を学んだ。そしてこの時、人は動物から人間へと大きな一歩を歩み始めたのだろう。

つまり、もともと人間性と技術とは切っても切り離せないものなのである。が、今現在それは大きく揺らいできている。しかし、現在でもその人間性と技術が上記のように、密接な関係を持つものがある。それは、お墓(碑)である。お墓は死者を、墓という現存する物質を通して具現化する事で、人はそこに亡き者への想いを託す。過去しか持たない死者を現在へ繋ぎ止める為に、石を積み上げ、花を手向け、手を合わせ、“祈る”。つまり、失ってしまった“もの”に対して、それを現世に繋ぎとめる為に、自らの手によって、“形”として蘇らせ、そこに新たな命(用途)を宿すのである。

私は、これこそが今日、絵画が見習う(求める)べき姿ではないだろうかと思う。重要なのは、作家が何を表現するかではなく、作り手が、そこに何を託すかである。

では、今日、絵画に何を託すべきか。私は、「時間」を託す。

現代の技術は、主に目的達成の為の時間の短縮化(より正確に、より合理的に)に努めている。しかし、本来の技術は、上記のように、墓にしろ器にしろ、そこに何かを留めたり、溜める為の手段だったのである。だからこそ、私は時間と戦う(無くそうとする)現代において、絵画に時間を託そうと思う。

その手段として、私は絵画に土を用いる。土は、かつて“何か”であったものの集積であり、この地の歴史の体現者であり、時間(過去)そのものである。土を描画材に用いる事で、私は絵画に直接時間を刻印していく。そうして出来た絵画は、「絵画」というよりも、時の碑のような存在である。だからこそ私は、それを「絵画」ではなく、「絵画碑」と名づける。そして私は、完成という名の一種の結末を迎えた絵画碑に対し、矢を射る。私にとって、矢を射る行為は、絵画碑に内包された時間へ、「描かれたイメージ」とは異なる次元から、“持続”する時間を絵画碑に流し続ける為にたどり着いた、ある一つの手段であり、絵画碑と関わる為の“技術”である。

私は、以上のような絵画との関わり方をもってして、現代が手放そうとしている“あるべき姿の技術”を人間が見失わないよう、創る行為を通して祈りを捧げようと思う。

そして、“これからの絵画”に期して、一先ず、ここに先駆の矢を射る。

作家略歴 | profile

薬師川 千晴

1989 滋賀県生まれ
2011 京都精華大学 芸術学部 造形学科 洋画コース卒業
2013 京都精華大学 大学院芸術研究科博士前期課程 芸術専攻卒業

展覧会

2013 科学のあとに詩をかくこと ギャラリー16・京都
2012 主張展 ギャラリーアーティストロング・京都
懐/常懐荘 旧竹内邸・愛知
視域/京都精華大学 7-23ギャラリー・京都
2011 Leave Color-視覚と知覚- ギャラリーフール・京都
2010 京展 京都市立美術館・京都

受賞

2010 京展 芝田記念賞

展示作品 | Works

01. 絵画と人間の条件 # 5

パネル、土、顔料、練り込みテンペラ、青錆、真鍮、羽
2350×4800mm 2013

02. 絵画碑 # 6

パネル、土、顔料、練り込みテンペラ
420×500mm 2014

03. 絵画碑 # 4

パネル、土、顔料、練り込みテンペラ
390×380mm 2014

04. 絵画碑 # 10

パネル、土、顔料、練り込みテンペラ、真鍮、羽
550×670mm 2014

05. 絵画碑 # 2

パネル、土、顔料、練り込みテンペラ
270×420mm 2014

06. 絵画と人間の条件 # 7

パネル、土、練り込みテンペラ、真鍮、羽
2000×2000mm 2013

